

早稲田大学 教育学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	90分
特徴・その他	<p>ちょっとした計算や、表を用いるとよい問題がいくつか含まれるので、センター試験の対策で得たテクニックを流用できる。</p> <p>“暗記物”で解ける問題が4割、考えて解く問題が6割程度で、早稲田の中では“暗記物”の比率が高いと言える。</p>

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	1.空欄補充 2.空欄補充 3.内容一致	「エンドレス・エコー」がテーマの英文。耳慣れない言葉に惑わされるとパニックになりそう。設問自体は単純です。	やや難
II	空欄補充 要点把握 内容一致	「地球温暖化と氷河期」という内容の英文。 設問の対象となった部分の前後の文にヒントがある。発音の問題が2問含まれているが、ここに時間をかけすぎないこと。	やや易
III	会話文 空所補充 省略補充	「ゴミの分別」 会話の流れから、同一の語が別の意味になることに注意。内容を読みながら、図表にすると良い問題。	易
IV	空所補充 同義語・同義文 選択 要点把握	「ビクトリア時代の改革」についての英文。 イディオム、分詞の問題などが含まれるので、いわゆる文法問題に近い設問となっている。	やや難
V	イディオム空 欄補充 書き換え 内容一致	「注意力の散漫により生じる誤り」 副詞のイディオムの選択が多く、センター試験第3問Aの対策の勉強が役に立つ。内容一致はヒントとなる語句を見つけるのがコツ。	やや易

〔総合コメント〕

いわゆる入試の文法問題という形式の問題が無く、大問 5 題全てが長文問題に見えるので、問題を開いた瞬間に焦る人もいるでしょう。落ち着いて時間配分をすると良い。各大問の中に実際にその文を読まなくても解答できるものも含まれているので、それが文法問題に準じている。従って、1 つの大問に固執して時間を使わずに、点を取れる設問から埋めていくと良い。